

研究部だより

第1号

秋田県立栗田支援学校

研究部

令和8年6月29日発行

研究テーマ「児童生徒が生き生きと学ぶ姿を目指した授業づくり」

今回は各学部・寄宿舎研究のテーマや内容についてまとめました。各学部における〈学習の記録の視覚化〉〈単元計画の工夫〉などの方法も取り上げているので、ぜひ所属学部以外の取り組みについても目を通してください。

小学部

～児童が「できた」と達成感を味わい、
自ら学習に取り組む姿を目指して～

【研究対象授業：遊びの指導、生活単元学習】

小学部では、児童の興味・関心と教師が育てたいと考える力が反映された学習活動を設定し、次の取組を行うことにより、小学部が求める児童の姿を引き出すことができると考えました。

ゴールを明確にした「少し頑張ればできる活動」の設定

- ・本時の学習のゴール（目標）を、児童と教師とで共有
- ・小さな成功体験の積み重ねができる工夫

友達との関わりを通した学びができるような工夫

- ・「友達と一緒にできた」「友達に認められた」などの経験の積み重ねができるような、学習活動やグルーピングの工夫

児童の学びの価値付け

- ・児童が自分の学びを実感できるようなまとめの工夫
- ・「やろうとしていた」など児童の実態に即した活動過程の姿の、教師の評価による価値付け

中学部

～生徒が目的をもって自ら学びに向かう姿を目指して～

【研究対象授業：職業・家庭科】

中学部では、「目的をもって自ら学ぶ姿」の実現を目指し、以下の内容に取り組めます。

①年間3～4回程度の個別面談の実施

授業づくりに生かせるように、生徒の思いや願いを把握



②「中学部のみちしるべ」の活用

自分の成長を振り返られるように、
学びの履歴を見返す機会の設定



③目的意識に重点を置いた題材設定の工夫

生徒の実態や興味・関心に応じた学び方の検討と、
題材設定や活動内容の工夫

高等部普通科

～生徒が課題に興味関心をもち、周囲の人やものに働き掛けながら、課題のよりよい解決方法を見つけ出そうとする姿を目指して～

【研究対象授業：職業科】

高等部普通科では、生徒の思いや願いの実現に向け、実体験を通した学びを大切にしたい取組をしています。

①生徒主体の実態把握と定期面談の実施

生徒が自分を客観的に捉え、なりたい自分に近づくための実施状況と取組について面談

②生徒の願いや思いにつながる体験の設定

実習、職場見学、卒業生講話等、体験を通した学びの設定

③学習過程が分かる提示の工夫

板書計画の立案や活動の流れ、どのように取り組むかが分かる視覚的支援の工夫

高等部総合サービス科

～生徒が長所を生かし、
なりたい自分に向かって行動する姿を目指して～

【研究対象授業：職業科】

総合サービス科では、生徒がよさや課題と向き合い、将来の姿や目標などを明らかにすることで、生き生きと学ぶ姿へつながると考えました。

生徒理解を目的とした定期的な面談の実施

- ・面談記録として「キャリアノート」の作成

学科オープンキャンパスの実施

- ・学びを得たり、発信したりする機会の設定

研修会の実施

- ・生徒の障害特性を踏まえた指導方針の確認

教育専門監、授業改善アドバイザーとの連携

- ・研究テーマに迫る手立ての工夫について検討

寄宿舍

～意欲や目的をもち、自ら活動に取り組む姿を目指した生活指導の実践～【研究対象場面：自立生活実習】

寄宿舍では、生徒の「やりたい」「伝えたい」「こうなりたい」という思いを基に、日常生活に関する体験的な活動や評価、振り返りの機会を充実させることで、生徒が意欲や目的をもち、自ら活動に取り組む姿につながるのではないかと考えました。

記録ファイルの作成・活用

- ・評価を記したファイリング
- ・生徒本人との共有

生徒の実態に応じた目標設定と支援の工夫

- ・生徒の「やってみよう」
- ・「できるようになりたい」という思いの確認

共通の視点での指導・評価・記録の充実

- ・生徒や職員による他者評価の機会の設定